

講義コード	515104601	
講義名	地域福祉活動実践I	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	通年	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日		
代表時限		
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	久野 高志	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

1)授業の概要

地域福祉に関連する活動への参画やボランティア活動の実績を単位として認定する。

2)授業の方法

①プレゼンテーションの方法

本学ボランティアセンターよりICTを活用して、ボランティア活動等の情報が提供される。

②授業形態

学生自身が活動に取り組み、所定の書式により報告書8「ボランティア活動の記録」を提出する。

【授業計画】

1 事前指導 — 情報提供、コーディネーション、指導（随時）

短大ボランティアセンターから情報提供を受けた地域福祉活動（ボランティアを含む）の中から自主的にテーマを選択（または受託）する過程と、選択後に短大ボランティアセンター等から行われる活動の意義・内容についての指導をもって事前指導とする。個人として得た依頼や情報から活動を行おうとする場合にも、短大ボランティアセンターもしくは当科目担当者に事前報告の上で指導を受けるものとする。

サークルとして参加する活動については、主催者との打合せやサークル内での諸準備および顧問教員の承認と、短大事務局への活動届出をもって事前指導に相当するものとする。

2 活動実践

地域福祉活動の実践（運営や参加）

3 報告書の提出

指定の書式により報告書を作成し、当科目担当者に提出する。複数人数や団体で活動を行った場合でも各個人がそれぞれに報告書を作成することとする。なお、活動内容により別途の報告を指示することがある。

授業の到達目標及びテーマ

地域での福祉活動を通して幼児教育や福祉の現場がもつニーズや課題を実践的に学ぶことを目

標とする。活動を通し自発性・公益性・先駆性・コミュニケーション能力を身につけ、保育士資格や幼稚園教諭免許状を取得するために必要な実習に対し積極的に取り組むための基盤をつくる。

到達目標については、学習成果における④人間性と協働性が該当し、これを重視する。

幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「7.他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。

授業計画表

授業時間外の学修

本学での講義やサークル活動、新聞、ニュースなどを通して得た広範囲の地域活動情報から、その意義や自身の関心について整理してみることにする。

参加、参画を経験・計画している活動に関連する動向等を把握するため、または活動を終えたものの展開を知るために新聞等に積極的に目を通すことが予習復習となるであろう。ともに30分程度の時間を想定している。

実務経験の有無

--

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
			◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
活動への貢献度	活動の意義 (ねらい) を理解し参画できている。	主催者の指示に従い行動できている。	他の参加者をみながらなんとか活動している。	活動についていけない様子がみられる
活動からの学び	活動を通して学びや気づきが得られている。	自分の役割を理解し活動に貢献できている。	活動から学びが活動の意義とは関係ないことである。	活動の終了をただ待っているだけである。
活動内容の理解	活動の意義 (ねらい) と内容を理解し、報告書にしっかりまとめられている。	活動の意義 (ねらい) と内容の理解が曖昧である。	活動の意義 (ねらい) と内容が正しく記入できていない。	活動の意義 (ねらい) と内容が全く分かっていない様子がある。

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト		

等		
成果発表		
授業への貢献度		
レポート		
その他	100%	「ボランティア活動の記録」を提出し、記載内容から活動時間の認定と評価（「合格」の判定）をする。

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
		その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット メール等の活用

アクティブラーニングの割合

--

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL

教科書

なし

SDGsとの関連

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

特記事項等

1)実務経験のある教員
なし

2)科目のナンバリング
SRE1201

学生へのメッセージ

思い切って学外の活動に参加してみましよう。そこで得られる自発性、経験、知識等は、保育者となったときに役立つことでしょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

（指定書式「ボランティア活動の記録」（以下、「報告書」）を提出する 100% 報告書をもとに、事前の計画に対する活動の達成度等から実活動時間を認定し、42時間以上（宿泊をとまなう場合は6日以上）の地域福祉活動の実践をもって単位を認定する。複数の活動時間を合算することができ、認定対象となる活動は、当該年度の4月1日から翌3月31日までのものとなります。単位認定者には「合格」の評価が付されます。